

## ごあいさつ

富士通アクセス株式会社

代表取締役社長 武市 博明



新年あけましておめでとうございます。

2004年7月の社会システム部門の富士通への事業譲渡以来、弊社は文字通りアクセス事業を中心に、パワトロシステム事業を加えて、2本の柱で事業展開を図ってまいりました。数年前から言われている通信業界のパラダイム・シフトは、ここ1年でますます顕著となっており、従来型のバリュー・チェーンや開発・市場展開のやり方に変革を迫っています。弊社のビジネスに引きうつして考えれば、これは、従来からの富士通の傘の下でのビジネスから1歩前進し、富士通アクセスが最前線に立って市場の声を聞き、お客さまの要望する製品をいち早く開発し製造し販売していく、そういうひとまとまりの自立的なユニットとしてビジネスを切り開いていく使命を改めて確認するということです。

弊社が直接取組んでいるアクセスの領域でも、いまやブロードバンド化が完全に定着し、ADSLは1300万人、FTTHは170万人の加入者を数えるに至りました。サービス内容も音声、データ、映像のトリプルプレイが主要なセットとなりつつあり、さまざまなサービスに要求される品質を、同一ネットワーク上で合理的に信頼度高く実現する技術が求められております。製品の品質と価格の両立についても一段と厳しい水準が求められることは言うまでもありません。

そうしたなかで、弊社は高信頼・高品質な製品を低価格で提供することによってアクセス系の市場で業界トップを目指すことを基本方針に掲げ、変転するブロードバンドアクセス市場でデファクト・スタンダードを取っていく意気込みで製品企画・開発に取り組んでおります。またそうした製品群は、喧伝されるユビキタス・ネットワーク社会の構築に貢献できるものと確信しております。

もうひとつの柱である、パワトロニクス領域では、従来からの情報通信電源での市場ポジションを維持するとともに、半導体設備用電源でのビジネスの安定成長を図っていきます。それに加えて新たに離陸しつつあるETシステムにおいて、培った最先端技術を生かした最高性能のマシンで、ビジネスを自らのものにしっかり定着させることを施策として取り組んでおります。

そこで「FUJITSU ACCESS REVIEW 第20号」では、アクセス、パワトロのそれぞれの領域の今後を展望する2篇を巻頭論文として掲載しました。加えてブロードバンドの今後を切り開く新しい製品群、GE-PON、100M VDSL、ホームゲートウェイ、CWDMなどの装置についても論じ、また紹介をしております。弊社の歴史上デザイン分野での初受賞となるグッドデザイン賞を受賞したIP Phoneについても紹介いたしました。ぜひご高覧いただき、より一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、本年の明るい幕開けを迎えられますことをお祈り申し上げます。